

釧路市教育委員会 令和6年第2回1月定例会会議録

1 日時：令和6年1月31日（水）13時30分から15時00分まで

2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

小出美貴子委員、榎山彩子委員、大山稔彦委員

（事務局）

齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、森学校教育部次長、大島総務課長、齊藤総括指導主事、外崎青少年育成センター所長、小西教育政策主幹、及川北陽高校事務長、関本指導主事、澤口生涯学習部次長、乙黒スポーツ課長、鈴木動物園長

4 議事録署名人 大山委員 榎山委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

議案第2号 釧路市立学校管理規則の一部を改正する規則

議案第3号 釧路市立高等学校学則の一部を改正する規則

報告事項

（1）学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】

議案第2号 釧路市立学校管理規則の一部を改正する規則

議案第3号 釧路市立高等学校学則の一部を改正する規則

(森学校教育部次長)

議案第2号、釧路市立学校管理規則の一部を改正する規則について説明する。

改正の内容については、学年始休業日の延長と、夏季休業日及び冬季休業日の総日数の延長についての2点となる。

まず、学年始休業日の延長について、現行の規則では小・中学校、義務教育学校は4月1日から4月5日までと規定しているが、学年始の準備期間を十分に確保し新学期準備等の充実を図るため、4月1日から4月7日までに延長する。

次に、夏季休業日と冬季休業日の総日数の延長の内容については、気候の変化に応じ、夏季休業日を従来よりも長く設定するなど、柔軟な学校運営を行うことができるよう、道立学校の規則に準拠し、総日数をこれまでの50日以内から56日以内に改正を行うものである。

なお、各学校における長期休業日数の運用については、現在校長会で、総日数は現行の50日を変えずに、夏季休業を30日、冬季休業を20日で調整しているところである。校長会が夏季休業日を30日とした理由としては、事業時数の確保や年間行事の影響を考えると50日を超えることは難しいこと、令和5年の夏の暑さを経験し、暑さ対策についてはハードソフトの両面が必要であると考え、ソフト面として夏休みをどの程度伸ばせるかを協議、長期休暇中は子どもたちを起床、就寝などの生活リズムや学習習慣が乱れることが多いため、夏休み終了後にそれらの回復に大きく影響しない日数としては、30日が現実的であるとの考えから、夏季休暇を30日として調整している旨、聞いている。

暑さ対策としては、保健室にルームエアコンの設置、教室には送風機を配置するなど、ハード面の対策も実施するため、次年度においてはハード、ソフト両面で検討し、さらに検討を続けていくものと考えている。

(及川北陽高校事務長)

議案第3号、釧路市立高等学校学則の一部を改正する規則について説明する。

先ほど議案説明のあった釧路市立学校管理規則の一部改正と同様、長期休業日の総日数の延長に関わって、学則の改正が必要となる。内容としては、道立高校における学則改正に準じて、夏季休業及び冬季休業の総日数を56日以内に延長できるよう改正するものである。

北陽高校における長期休業日数延長の実際の運用については、授業日数の確保への影響が大きく、令和6年度から直ちに延長を行うことは難しい状況にある。現状としては、かろうじて授業日数を確保している状況であり、現在、働き方改革の視点も含めて、学校祭をはじめ各種行事の見直しを行っていくことで、より多くの授業日数を確保しようと検討しているところであるが、最終的な結論までには、なお時間を要する見込みである。

このため、令和6年度については、今年度と同様の長期休業日数である47日で指導計画を作成する見通しであり、令和6年度中に行事の見直しを行った上で、気候の変化に応じた長期休業日数の対応を行っていきたいと考えている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(岡部教育長)

義務教育段階と北陽高校で少し運用が異なるところはあるが、ポイントとしては、教育委員会が定める規則に関しては道教委の規則を踏まえた中で、56日以内ということに改訂すること。ただ、実際の規則の運用に関しては学校長の裁量であるため、義務教育学校、小中学校校長会において、具体的な日数の検討をすることとなり、現時点では、夏季30日、冬季20日のトータル50日という考え方で検討いただいている。また、北陽高校も含めて、ハード対策も進めている。令和6年度の釧路地域の気候・気象がどのようになっていくのかという見極めも改めて必要になるため、令和6年度に関しては夏季30日、冬季20日といった整理で運用を続ける中で、さらに検討を深めていく流れになると思う。

(大山委員)

校長会において検討されている案は、子どもたちのこと、また教育活動の質の確保ということも十分考えられているため、まずはこの中でやっていただきたいと思っている。併せて釧路管内の状況も情報として認識しておいていただきたい。

(岡部教育長)

今のところ管内も、全町村同じではないが、基本的には、総数50日というのは、変えない方向での検討が中心のようである。

(小出委員)

夏休みが従来よりも長くなることで、家庭で過ごす時間も長くなることから、過ごし方について家庭との連携が、今まで以上に必要になってくると思う。

【公開案件】報告事項

(1) 学校の現状について

(齋藤総括指導主事)

報告事項(1)、学校の現状について報告する。

1月10日に市内全小・中・義務教育学校長が一堂に会して学校経営研究協議会を実施し、釧路教育局 泉野将司局長の講演のほか、6名の校長の実践発表と3つの分科会に分かれての研究協議を行った。新年早々から、校長自ら学び続ける姿を体現したと共に、その晩には教育委員の皆様をはじめ、市教委や教育局の幹部に加えて、4年ぶりに教頭先生方も参加しての新春教育関係者懇親会も無事に実施することができた。

算数・数学と英語に関するアンケート調査を児童生徒並びに教員を対象に、5月に実施し

たが、今回2回目を実施した。1月31日が締め切りとなっており、集約後に1回目の結果と比較して分析を行うため、分析結果がまとまり次第、改めて定例教育委員会で報告させていただくとともに、各学校には授業改善の一助にするよう、活用についての示唆を与えていきたいと考えている。

釧路中央図書館と生涯学習部の事業で実施している、「読書活動サポートセット」事業について、各学校では大好評である一方、今年度は例年に増して本の破損・水濡れ・紛失等が多いという報告を受けた。そのため、各小学校に対して、本の管理と共に道德性の醸成について周知啓発を行ったところである。

報道でも話題となっている、メジャーリーガー大谷翔平選手からのグローブは、各小学校に3つずつ1月の半ばに釧路市にも届いた。市教委としては、冬休み中に学校に配布するよりも、3学期が始まってから一斉に子どもたちにお披露目することが相応しいと考え、全小学校、1月22日にお披露目と決めて行ったところである。子どもたちへの披露の方法や今後の活用方法の具体については、学校規模などを考慮し、各学校にお任せした。そのうち、美原小学校では蝦名市長から児童代表にグローブを渡し、代表児童が市長とキャッチボールをしたほか、小中ジョイントの関係で美原中学校の生徒代表も参加し、キャッチボールのサポートや最後には中学生同士でのキャッチボールも披露し、小中ジョイントの成果が着実に表れてきていると実感したところである。大谷翔平選手が「野球やろうぜ」というメッセージと共にプレゼントしてくださったグローブが、陳列のみで終わることなく、実際に子どもたちが手に取って触れ、体育の授業等で活用され、子どもたちの野球への関心はもとより、運動やスポーツへの興味づけの一助となってくれることを願っている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(大山委員)

先日行われた、学校・家庭・地域と共に考える教育懇談会の際に校長会から出された話は、5年前の学力の課題や不登校の話であり、小中ジョイントはこれらの課題を解決するために教育委員会として取組んでいる内容であるため、小中ジョイントについて話が出てこなかったことに若干違和感がある。今年度も残り3ヶ月となるが、小中ジョイントについては各学校において進めていただきたい内容であると思う。例えば、学力の分析についても、今の中学校1年生の学力は去年の小学校6年生の学力であるため、その点を小中で話し合うなど、来年度に向けても、小中ジョイントは普通の小中連携ではなく、将来、義務教育学校設置や小中一貫校を目指す取組みであるため、もう一度確認をお願いしたい。

(齊藤総括指導主事)

教育委員会としても、小中ジョイントプロジェクトは教育行政施策の中核をなすものと認識しているため、改めて各学校、特に中学校の校長先生方には、そのあたりを充実させ、また、学力向上に向けての取組みの具体化を進めていくよう話したいと思う。

(靱山委員)

大谷選手からのグローブについて、非常にうれしいことだと思っている。まだ届いて1週間くらいだと思うが普段はどのように使っているのか、情報があれば教えていただきたい。

(齊藤総括指導主事)

各学校の状況について調べたところ、多くの学校で実際に目に触れさせたい、手に取らせたいという観点から、6年生から順番に回す、閲覧できるスペースを作るなど、そういったところから始め、その後は体育のティーベースボールという野球に似た授業で、大谷選手のグローブも活用しながら授業をしている学校も出てきたところである。

(靱山委員)

大谷選手から野球やろうというメッセージであるため、たくさん使っていただけたらと思う。